

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和7年12月8日（月）～令和7年12月14日（日）〔令和7年第50週〕の感染症発生状況

第50週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) インフルエンザ 2) 感染性胃腸炎 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

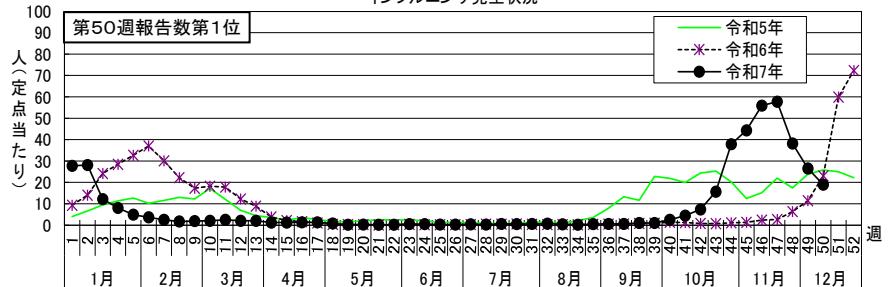
インフルエンザの定点当たり患者報告数は18. 87人と前週（26. 50人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4. 65人と前週（3. 27人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

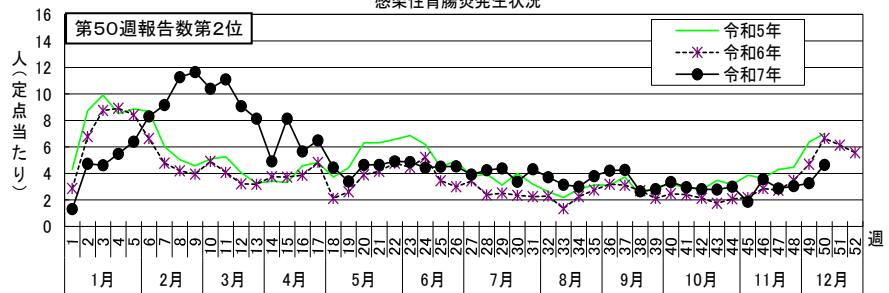
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は4. 14人と前週（2. 84人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



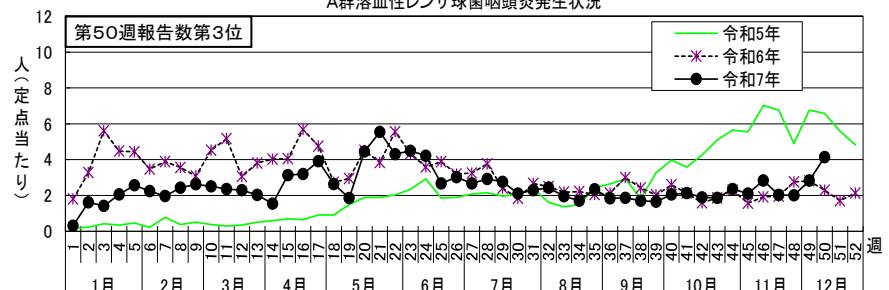
インフルエンザ発生状況



感染性胃腸炎発生状況



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数が増加しています！

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、例年冬季及び春から初夏にかけて報告数が増加する感染症です。川崎市における令和7年第50週（12月8日～14日）の定点当たり報告数は4. 14人となり、2週連続で増加がみられました。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、突然の高熱や咽頭痛等で発症します。通常は1週間以内に改善し、予後は良好な場合がほとんどですが、まれに急性糸球体腎炎等の合併症を引き起こします。細菌感染症であることから抗菌薬が有効であり、発症初期から適切に治療することで合併症も防ぐことができます。初期症状だけでは、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症など他の感染症との区別が難しいため、突然の高熱や咽頭痛等がみられた場合は、医療機関に御相談ください。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは？

病原体：A群溶血性レンサ球菌

感染経路：接触感染、飛沫感染

潜伏期間：2～5日間

主な症状：突然の発熱、全身倦怠感、咽頭痛、
莓舌（イチゴのように赤くポツポツ
した状態）、体や手足の紅い点状発疹

合併症：急性糸球体腎炎、リウマチ熱等

予防対策：患者との濃厚接触を避ける、手洗い等

川崎市におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎報告数
(令和3年第1週～令和7年第50週)

